



## 【野菜づくり情報】

KASSAI

喝采

喝采をあびる野菜づくり事業。

高温・少雨対策について

(PRO・指導者用)No.1

JA福井県【福井基幹支店】

6月28日に梅雨が明け、連日猛暑が続いています。また、降雨も少ないため、高温障害や水分不足による各種障害も発生しています。  
そこで、高温等の対策資料を作成しましたので、業務の参考にしてください。

## 記

## 1 6月の気象

(単位:°C、mm)

	上旬		中旬		下旬		6月合計	
	平均気温	降雨量	平均気温	降雨量	平均気温	降雨量	平均気温	降雨量
令和4年①	19.9	39	22.9	13	28.6	31	23.8	83
平年値②	20.8	22.9	22	47.5	23.1	82.5	22	152.8
比較①-②	-0.9	16.1	0.9	-34.5	5.5	-51.5	1.8	-69.8

## 2 高温・少雨による野菜への影響

- ①果菜類では、草勢の低下により、着果の不良や果実の肥大不良となっている。  
また、トマトやピーマンなどの尻腐れ果やナスのつやなし果、きゅうりの曲がり果などの障害果が発生している。
- ②水分不足による生育の遅れやネギの葉先枯れなどが発生している。
- ③トマトの金粉果(ミカンキイロアザミウマによる被害)やハダニ類、ヨトウムシ類など害虫被害が増加している。

## 3 高温・少雨対策

## (1) 露地・施設栽培共通

## ①かん水

- ・圃場が乾燥している場合は、地温が低下した夕方や早朝にかん水を行う。  
また、高温な状態では蒸散量が増加するので、かん水を十分に行う。

## ②追肥等

- ・草勢の低下を防ぐため、肥料は少量で施用回数を多くする。
- ・根が弱っていると養分吸収が悪くなり肥料切れ状態となるので、窒素入り肥料を葉面散布する。
- ・トマトの尻腐れ果などの発生を防ぐため、「カルプラス」などのカルシウム剤を開花花房付近を中心に葉面散布する。
- ・葉面散布では、使用基準に記載されている薄い濃度で行う。

### ③病害の防除

- ・ネギなどの軟腐病やショウガの根茎腐敗病など、高温性の病害が発生しやすくなるので、窒素過多を避け、過湿にならないように注意し、予防的に薬剤防除する。
- ・老化葉や黄化した葉などを摘葉して、風通しをよくする。

### ④害虫の防除

- ・ハダニ類やヨトウムシ類、アザミウマ類、オオタバコガなどの害虫の多発生が懸念されるので、定期的に薬剤散布を行うとともに早期発見・早期防除に努める。

### ⑤果菜類の草勢維持

- ・トマト、ナス、ピーマンなど果菜類では着果負担が大きくなるので、適期収穫を行う。収穫遅れにならないようにし、出荷しないものでも必ず収穫する。
- ・草勢が低下した場合は少し早めに収穫し、追肥やかん水を行い草勢の回復を図る。
- ・曲がり果や障害果、害虫による被害果等の摘果により着果負担を軽減する。
- ・キュウリなどで草勢の弱い場合、側枝の摘芯などを控える。
- ・トマトやオクラなどでは、収穫後に下葉を摘葉するが、草勢が弱い場合、下葉を多めに残す。
- ・トマトやピーマンなどでは日焼け果が発生するので、草勢の維持に努めるとともに極端な摘葉などをしない。

### ⑥品質の低下を防止するため、収穫は気温の低い早朝に行う。

- また、収穫した物は直射日光を避けるとともに、できるだけ温度の低い所(予冷庫など)に一時保管する。

## (2)露地栽培

- ①敷きわらや枯草などを厚く被覆し、地温の上昇や土壤水分の蒸発を抑える。
- ②黒マルチを被覆している場合は、マルチの上に敷きわらなどを敷くと良い。
- ③畝間かん水をする場合は夕方に行い、畝が湿ったら速やかに排水を行い、停滞水がないようにする。
- ④サトイモは、土壤の乾燥により収量の低下や芽つぶれ症などが発生するため、畝間かん水などを行う。
- ⑤高温時でのネギの土寄せは、根を痛めて生育を抑制するので、控えた方が良い。
- ⑥スイートコーンは30℃以上の高温になると、花粉が死んでしまい、結実不良で歯抜けの子実になる。また、幼穂の形成する時期に水分不足になると子実の肥大不足や先端不稔などが発生するので、これ以降圃場が乾燥していたらかん水を行う。
- ⑦カボチャなどでは、草勢が低下すると、うどんこ病が発生しやすいので、発生初期の段階から薬剤防除を行う。

## (3)施設栽培

- ①できるだけ、換気を図る。
- ②日中は、遮光資材(遮光ネットなど)を利用して、遮光する。  
なお、朝夕や曇天日には遮光資材を除去して生育が軟弱徒長しないようにする。
- ③トマトではかん水により土壤水分が急激に変化すると裂果が発生しやすいので注意する。
- ④ミディトマトなどでは軟化果の発生が懸念されるので、換気や遮光を行う。また、草勢の低下を防ぐとともに果実への直射日光を避けて果実温度の上昇を防ぐ。

## (4)病虫害防除

- ・農薬容器等のラベルを良く確認し、「農薬使用基準」を必ず守ること。
- ・農薬散布は気温の低い時間帯で行う。
- ・使用濃度は、使用倍率の低い濃度で行う。(高温で薬害が発生しやすい。)